

ぶらっと山歩（さんぽ）

コロナ感染自粛からのささやかな脱出

～サギソウ・3年ぶりの再会へ～

文と写真：吉野会長

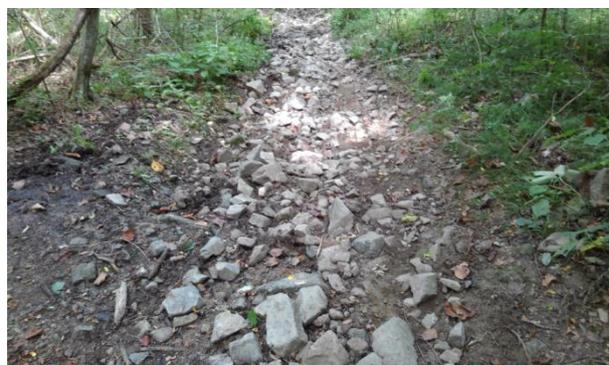


猛暑とは「大変厳しい暑さのこと」であるが、今夏の日本列島は灼熱（焼きつくように熱いこと）と書く方がふさわしいと思うほどの日照り続きであった。他方、見えない敵・コロナウイルスの感染が再拡大する中、日本経済への打撃は計り知れなくなっており、老舗の店が次々と締めざるを得なくなり、多くの関係業者も連鎖反動で倒産閉店！・・・コロナの収束と力強い経済活動の日本は戻ってくるのか？・・・ささやかな年金暮らし者への負担が増大するのは？・・・そんなことを考えながらの毎日ではエエカゲン頭の中もおかしくなる。



舞台へ出る前のミーティング中？

パソコンのトップ画面を飾っている“サギソウ”の画像を何となく眺めていて、「そーや、もう咲いてる時期や！全は急げや！！」・・・何も調べず、長袖、長靴に手袋とスマホを車にほり込み飛び出した。・・・夜露をつけたパソコン画面のサギソウを撮影してから、かれこれ3年になる。場所は自然保護上記すことは出来ぬが、正真正銘、自生で生き延びており、しかもかなりの数が咲き誇っているのである。



河原のように荒れた登山道

8月17日（月）、人っ子一人いない荒れた登山道に入る。ここ3年の間に来た大きな台風は、

この辺りも通り過ぎている。その間に自生地は雨水で埋まったり、流れたりしているのでは？と心配しながら入って行った。案の定、道は川底をひっくり返したような荒れようで歩き辛い。しばらく入って行くと、登山道の所々に水が流れ、長靴に履き替え入山したのは正解であった。加えて蜘蛛の巣やアブ・やぶ蚊の防御にと帽子、長袖シャツも大変有効であった。

約 50 分で目的地へ着いた。倒木や水浸し箇所を乗り越え、分け入ると・・・今朝初めて花開いたばかりのごとき純白のサギソウが、みごとに咲き誇っているではないか！！



10 羽もの大家族！



ハクチョウならぬサギの舞、独演！



左の男性が自分の陰で右の女性を保護！



画面に入らないほどの群落！



母親の前に子供 2 羽、後に 1 羽でどこ行くの？



1 羽だけで楽しもう〜と！

3 年前までは数年続けて訪れていたが、8 月の後半、25 日前後から 9 月初頭であった。その時の写真を引き合わせてみると、純白の羽や身体の一部に小さなシミが有り、一眼レフカメラで接写しているのでどうしても目立っているが、今回は一点のシミもない誕生して間の無い素晴らしい純白である。最近一眼レフカメラを持ち歩かず、スマホカメラで済ませるのが常となり、今回持参しなかったのを悔やんだ！・・・。40 分程滞在し、来年も元気でおれたら会いに来るで！・・・と心でつぶやき、現地を後にした・・・。



宝塚歌劇のダンサーのような華麗な舞！

【筆者のつぶやき】

今回の「ぶらっと山歩」は、9月に入って5日目に書いた。9月3日の神戸新聞夕刊の「随想」というコラム欄にお書きになられた伊藤紀美子氏（神戸商工会議所副会頭）の記事の中でご指摘されておられることに全く同感であったので、その一部をご紹介しますおきたい。

「・・・コロナによる未曾有の世界的危機は、行き過ぎたグローバル化、自然や生態系の破壊など過度な人間の欲望がもたらした人類への警鐘ともいえるだろう・・・」と。

○スエーデンの16歳の少女が、たった一人で大気汚染・地球温暖化阻止を訴えたのは僅か1年前。

世界の人々が少女の訴えに感動した矢先のコロナ禍であった！！

○毎朝登山をすることによって、あるいは、週末・休日ごとに山歩きをし、山の自然の恩恵に感謝し、自然環境の大切さを分かっている私達ヒヨコ会員に出来ることは何か？・・・

自粛生活の中で、ゆっくりと考えてみるのも大事なことと思うが・・・如何だろうか？

○最大瞬間風速が90メートル！！超大型台風10号が北上中。

どうか通過地に被害なき様、祈るのみ。

9月5日 記